

九州の森と林業

No.52

森林総合研究所九州支所

就任に当たって

支所長 福田 章史

本年の4月1日付けで森林総合研究所九州支所長を拝命いたしました。いままで支所に縁がなく、入所以来今回が初めての支所での勤務です。支所の特色を生かし、九州地区の林業の発展のため少しでも力が尽くせればと考えております。

私は、これまで林業機械の研究に従事しており、いわば狭い穴から林業を覗いていたのではないかと反省しています。今後は、できるだけ広く森林と林業を見渡す眼を持っていかなければならないと考えております。

森林と林業についての国民の関心は大きく変化し、総理府の「森林と生活に関する世論調査」(平成11年)では、国民の森林に期待する役割は、昭和55年の同様の調査では第1位が災害防止、第2位が木材生産であったものが、この調査では第1位の災害防止は変わらないものの、第2位は水資源涵養、第3位が温暖化防止と続き、林産物生産が第8位、木材生産は第9位と後退しております。近年の地球温暖化などの環境に関する意識の高まりがこの世論調査にもはっきりと反映されており、国民の森林に対する期待は非常に多様化しています。

一方、我が国の林業は、よく言われているように危機的な状況にあります。九州では、戦後長年にわたっ

て造成されてきた人工林があり、日本の中でも人工林率の高い地域であるため、その危機的状況はより深刻であると言えます。

このような状況から、現在日本の森林・林業は大きな変革期にあります。現在検討されている林業基本法にもこれらの状況が反映されることになるでしょうし、われわれの森林総合研究所も独立行政法人に向けて大きく変革しようとしています。国民のニーズを反映すると共に、長期的な視野にたつてこれからの九州支所の研究課題を作り上げていかなければなりません。大きく括れば「森林の多面的機能の発揮」と「持続的な森林管理」が主要な命題となるでしょうが、具体的に研究課題を設定し実行するに当たって、おのおのの課題が大きな流れの中でどの位置を占めているのかもう一度真剣に考えてみる必要があります。

来年度から森林総合研究所は独立行政法人に移行します。残された数ヶ月で、よりよい組織とその中身を考えていかななくてはなりません。森林と林業がわれわれのベースにあり、そこから大きくは地球環境にアプローチし、かつ地域で地道に林業に取り組んでいる人達のことも忘れずに今後の道筋を考えていきたいと思っています。

平成11年の九州地域の森林虫獣害発生状況

昆虫研究室 伊藤 賢介 ・ 鳥獣研究室 小泉 透

樹木に対する昆虫や獣類の加害に適切に対処するには、どのような昆虫や獣類がいつ、どこで、どれくらいの被害を起こしたのかを日頃から監視・記録しておかなければなりません。ほとんどの場合こうした被害は一時的・局所的なものにとどまりますが、特に虫害の場合はまれに大発生する場合があります。過去の記録に基づいて被害の深刻さや大発生の危険性を予測することができれば、防除の必要性を判断して被害が広がらないうちに対策を講じるための大きな手がかりとなります。

九州支所では、いわばこうした「早期警戒システム」を作り上げる一環として、九州管内の被害発生情報の収集を続けています。具体的には、各県の林業研究機関、林務担当者、また国有林については各森林管理署の協力を仰いで、樹木に発生した虫害や獣害をハガキ形式の調査票に記入して送っていただいています。毎年、これらの情報に支所で集めた情報を加えてデータベースとして蓄積しています。なお九州以外の地域についても、森林総研の各支所と本所が、それぞれの担当区域内の発生情報をほぼ同様の方法で収集して公表しています。寄せられる情報の量は決して多くはありませんが、こうしたシステムは長く続けなければ実効的な効果を期待できないという面もありますので、今後とも各方面の協力を得て続けていきたいと考えています。

平成11(1999)年に寄せられた虫害と獣害について表-1と表-2にまとめてあります。

虫害については13種19件の情報が寄せられました。平成10年に宮崎県への侵入が発見されたヤシオオオサザウムシによる被害が本年も発生し、新聞報道によれば日南海岸でフェニックス35本が枯死したとのことです。フェニックスは「南国宮崎」のシンボルであり県木にも指定されていますので、被害がこ

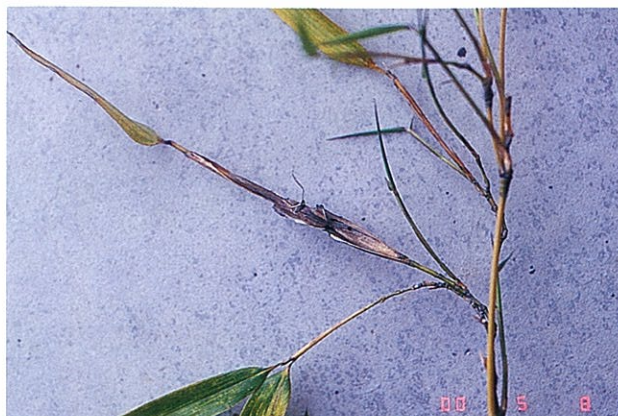


写真-1 モウソウタマコバチの虫えい(支所構内)

れ以上拡大するのを防ぐために、被害木の伐採焼却、健全木への薬剤予防散布や防虫網設置が実施されています。そのほか、モウソウタマコバチが福岡県と熊本県で発生しました。この虫はモウソウチクの小枝に寄生して、一見するとタケの花に似た長さ2~3cmの細長い虫えい(虫こぶ)を作ります(写真-1)。九州地域では被害に気がつくほどこの虫が高密度に発生することは珍しいようですが、本年はモウソウチク栽培業者から問い合わせがあったほどで、例年になく被害が目立ったようです。

調査票による情報提供ではありませんが、鹿児島県桜島でカシノナガキクイムシに穿孔・寄生されたマテバシイが大量に枯死しているのが発見されました(写真-2)。また、長崎県雲仙の仁田峠でモミが集団的に落葉・枯死しているのが平成10年に発見されましたが、本年も引き続き新たな枯死木が発生しています。モミハモグリアシブトゾウムシ(*Parendaus abietinus*)の幼虫による潜葉食害と成虫による後食被害、さらにタマバエの一種による虫えい形成が落葉の直接原因と考えられています。ほぼ全葉が食害を受けて落葉したモミは枯死して、その幹にはトドマツノキクイムシが穿孔しています。仁田峠周辺では、平成2年から7年にかけての普賢岳

噴火活動のさいに、火山性ガスによって多くの樹木が枯死しました。生き残った樹木にもこの時の悪影響が残っていて、害虫の被害を受けやすくなっているのかもしれませんが。

獣害では大分県からニホンジカとノネズミによる被害が報告されました。ニホンジカの食害はヒノキのほかにクロマツでも報告されました。ヒノキの食害は品種によって被害率が異なっていました。かつて全国各地で深刻な被害を引き起こしたノネズミも最近ではほとんど被害が報告されなくなりました。造林地が小面積に分散して造成されるようになったためですが、局地的に2～3年継続して被害が発生する事例もあります。造林地が水源涵養保安林に隣接しているケースも多く、殺鼠剤が使用しにくい場合もありますので注意が必要です。このほか、調査票による情報提供ではありませんが、宮崎県綾町の常



写真-2 鹿児島県桜島でのマテバシイの大量枯死
(撮影：平成12年5月1日 真鳥克典)

緑広葉樹林(照葉樹林)ではヤブニッケイの新葉がニホンジカに集中的に採食されていました。ヤブニッケイは長崎県五島列島の野崎島以外では採食記録がなく、これまで不嗜好植物であると考えられてきました。今回の集中採食がどのような理由によるのか、調査を始めたところです。

表-1 1999年に報告された虫害

昆虫名	発生地	樹種	被害本数	備考
甲虫目				
オオトラカミキリ	鹿児島県霧島町	モミ		天然林, 枝・幹の穿孔害
クワカミキリ	佐賀県太良町	ケヤキ	(0.3ha)	人工林, 幹の穿孔害
クワカミキリ (推定)	佐賀県三瀬村	ケヤキ	(0.3ha)	人工林, 枝・幹の穿孔害
ドウガネブイブイ	佐賀県川副町	イヌマキ	20本	庭木, 食葉害
ヤシオオオサゾウムシ	宮崎県宮崎市	フェニックス	17本	庭木・並木, 全身食害
半翅目				
ウメシロカイガラムシ	佐賀県三日月町	サクラ		庭木, 枝の吸汁害
ウメシロカイガラムシ (推定)	佐賀県	キャラボク		庭木, 吸汁害
膜翅目				
モウソウタマコバチ (推定)	福岡県稲築町	モウソウチク		枝に虫えい形成
モウソウタマコバチ (推定)	福岡県北九州市	モウソウチク		枝に虫えい形成
膜翅目と甲虫目				
モウソウタマコバチ, タケトゲハムシ	熊本県水俣市	モウソウチク		食葉害と枝に虫えい形成
鱗翅目				
アメリカシロヒトリ	大分県日田市	モミジバフウ	6本	並木, 食葉害
アメリカシロヒトリ (推定)	熊本県熊本市	ラクウショウ	20本	並木, 食葉害
トサカフトメイガ (推定)	佐賀県大和町	カイノキ (楷樹)	1本	庭木, 食葉害
マツカレハ	大分県宇佐市	クロマツ	2本	庭木, 食葉害
マツカレハ	宮崎県宮崎市	クロマツ	(23ha)	人工林, 食葉害
モンクロシャチホコ (推定)	福岡県久留米市	サクラ	20本	並木, 食葉害
ダニ目 (昆虫ではありませんが, 便宜上, 害虫として扱っています)				
スギノハダニ	佐賀県藤木町	スギ	(1ha)	人工林, 新梢の吸汁害
スギノハダニ	佐賀県江北町	スギ	(約3ha)	人工林, 新梢の吸汁害
多芽病 (フシダニ)	大分県大分市	クロマツ		盆栽, 芽が天ぐ巢状に変形

表-2 1999年に報告された獣害

害獣名	発生地	樹種	被害本数	備考
ニホンジカ	大分県日田市	ヒノキ	136本	人工林, 食害
ニホンジカ	大分県日田市	ゴヨウマツ	3本	庭木, 角とぎ
ニホンジカ	大分県日田市	アカマツ	3本	庭木, 角とぎ
ニホンジカ	大分県日田市	クロマツ	32本	食害
ノネズミ	大分県日田市	スギ	20本	人工林, 食害

害虫シリーズ (14)

ツゲノメイガ

ツゲノメイガは北海道から九州まで広く分布し、朝鮮、中国、インドにも分布します。ツゲ、クサツゲ、セイヨウツゲなどツゲ属だけを食べます。特にツゲを生け垣や庭木として植えると必ずこの虫が発生すると言われているほどで、長年にわたって激しい食害が続くと株が枯れてしまう場合もあります。

幼虫の体長は3.5 cmくらいになります。頭部は光沢のある黒色で、胴部は鮮やかな黄緑の地色に黒褐色の模様があって目立ちます。成虫（蛾）は褐色に縁どられた灰白色の翅を持ち、夜行性で灯火に飛来します。



ツゲノメイガ幼虫



ツゲノメイガに食害されたツゲ生け垣（支所構内）

この虫は1年に2～3回発生します。幼虫で越冬して4月頃から食害を開始します。幼虫は糸を吐き出してツゲの枝先を綴って、その中で葉を食べます。糞や食べかすの葉が落下せずに糸に引っかかっているので、遠くから見ても被害が目立ちます。樹上で蛹になり、5～6月に1回目の成虫になります。

昆虫研究室 伊藤 賢介

連絡調整室から

(1) 九州地区林試協春季場所長会議が、5月15～16日に長崎県小浜町及び島原市にて開催され、各種報告、各機関における研究の取り組みの現状と主要成果の紹介、各県提案事項等についての討議、並びに現地検討会が行われた。

(2) 今後の会議等の開催予定

1) 九州地区林試協研究担当者会議

開催日：平成12年8月23日(水)～25日(金)

場 所：熊本厚生年金会館

2) 森林総合研究所九州支所研究発表会

日 時：平成12年8月25日(金)13:15～

場 所：熊本厚生年金会館

3) 林業研究推進九州ブロック会議

開催日：平成12年10月12日(木)

場 所：熊本厚生年金会館

(3) 「標本館」を一般公開中です。

開 館 日：毎週土・日曜日

開館時間：9:30～16:30

九州の森と林業 No.52 平成12年6月

編集 農林水産省 林野庁

森林総合研究所九州支所

〒860-0862 熊本市黒髪4丁目11番16号

T E L (096)343-3168

F A X (096)344-5054

URL=<http://www.ffpri-kys.affrc.go.jp/>